

平成30年度

看護ゼミナールⅡ

～ テーマ一覧 ～



愛知医科大学 看護学部

Aichi Medical University College of Nursing

テ ー マ	1 神経内科疾患における看護について 2 看護学生の死生観について			
担 当 教 員 名	教 授 衣 斐 達			
科 目 概 要	1 テーマおよび研究内容は面談により決定する。 2 自ら学習する姿勢や看護の専門性を追求し、発展させていくことを学ぶ。			
目 標	研究について、文献検索、計画の立案、データ収集・解析、論文作成といった実際のプロセスを学ぶことにより、論文作成能力を獲得する。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究計画の立案	16	研究調査 データ蓄積
	2		17	
	3		18	
	4		19	
	5	文献検討	20	研究結果の解析
	6		21	
	7		22	
	8	研究調査 データ蓄積	23	研究論文の作成
	9		24	
	10		25	
	11		26	
	12		27	
	13		28	
	14		29	
	15	30		
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。			
評 価 方 法	研究計画書、研究態度、提出論文、発表を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	研究テーマにそって適宜紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	学生が主体的に計画し、研究を実施する。研究を進める際は、研究参加・調査対象者の個人の権利やプライバシー保護などの倫理的な配慮を遵守すること。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	金曜日 16:30-17:00C棟 7階教授室 9			

テ ー マ	分子生物学		
担 当 教 員 名	教 授 三 浦 裕 次		
科 目 概 要	<p>将来大学院に進級し、遺伝子レベルで看護学を極めたい学生対象の講座である。生命科学が飛躍的に進歩している現在、分子生物学はその中核の位置を占めており、医学系から健康学系までのあらゆる分野の基本をなす学問となっている。ヒトゲノムの全塩基配列が決定されようとしている今、生命の神秘、疾病の原因などの探求に、分子生物学的知識・研究は欠くことができない。遺伝子をはじめとする分子の生体内（細胞内）での働きをどのような手法で解析しているか、基本的な技術を習得する。</p>		
目 標	<p>遺伝子の働きを中心に、生命体の普遍性がいかなるものかを概観し、生体の恒常性および病態の理解のための基礎的な知識を習得することを目標としている。制限酵素・PCR法・アガロース電気泳動など分子生物学の基礎的な知識・技術を習得する。この結果、看護の現場に立った時に、患者の採血や病理検査後に、自分の知らないところで、どのような解析が行われているか垣間見ることができる。</p>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	概説	16 定量 PCR 法
	2	細胞培養の調整	17 抗ガン剤による細胞死誘導
	3	細胞の培養	18
	4		19
	5	RNA の抽出	20 MTT アッセイ
	6		21
	7	cDNA の合成	22 AnnexinV アポトーシス解析
	8		23 転移・遊走反応試験
	9		24
	10	半定量 PCR 法	25 タンパク質の抽出
	11		26
	12	アガロース電気泳動	27 ウェスタンブロッティング
	13		28
	14	定量 PCR 法	29 まとめ
	15		30
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	<p>1 研究課題に必要な書籍・文献を読んで参加すること。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。</p>		
評 価 方 法	<p>研究に対する姿勢と発表の成績から評価する。 (両者の比率は概ね 6 : 4 とする。)</p>		
教 科 書 ・ 参 考 書	必要なプリントを配布します。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<p>8月の夏休み期間中に約3週間かけて「分子生物学」を楽しくかつ容易に学ぶ予定である。この知識を基にして専門分野で活躍していただければと、心から願うものである。</p>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	<p>月 15:00~17:00 C棟7階教授室8(面談の重複を避けるため、事前にアポイントメントを取ることが望ましい。 ymiura@aichi-med-u.ac.jp)</p>		

テ ー マ	慢性腎臓病・腎代替療法（透析療法）に関すること			
担 当 教 員 名	教 授 西 川 和 裕			
科 目 概 要	慢性腎臓病・腎不全や透析療法について、臨床現場で調査研究を行い、その過程で研究方法を学ぶ。			
目 標	1 研究計画、文献検索、論文作成など研究手法を理解し実践できる。 2 自らの疑問や興味を研究に反映できる。 （なお、この研究成果は学会などでの発表を目指します）			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究テーマ選定、計画	16	データ分析
	2		17	
	3		18	
	4		19	結果まとめ
	5	20		
	6	予備調査・文献検討	21	追加データ収集、分析
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	
	9	データ収集	24	
	10		25	研究論文作成
	11		26	
	12		27	
	13	データ分析と計画の見直し	28	まとめ・発表
	14		29	
	15	データ分析	30	
準 備 学 習 （ 予 習 ・ 復 習 ）	慢性腎臓病・腎不全、透析療法につき予め基礎知識を得ておくこと。			
評 価 方 法	研究に取り組む姿勢と論文を総合して評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜、紹介・提供する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 テーマ選定から論文完成まで学生が主体的に取り組むこと。 2 スケジュールは相談（夜間、休日などを含み不規則になる）する。 3 本当に興味のあることをテーマに選ぶこと。 4 倫理申請や完成まで時間的余裕はない。 5 予め取り組んでみたい内容を考え相談すること。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 16時20分～17時50分 C棟7階 教授室7 （メールでの質問も可能。 nippy@aichi-med-u.ac.jp ）			

テ ー マ	内科系疾患に関する文献研究（具体的なテーマは、虚血性心疾患、サルコイドーシス、ウイルス性肝炎、ネフローゼ症候群、糖尿病の中から相談により決定する。）			
担 当 教 員 名	教 授 近 藤 真 治			
科 目 概 要	相談により選定した疾患について、その概念、病因、病態、診断、及び治療に関する文献研究を行う。			
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護に必要とされる疾患の成り立ちと回復の促進について学ぶ。 2 専門基礎科目群（特に形態機能学、生化学、病理学、感染・免疫学、臨床薬理学、および病態治療学）で得た知識の統合を図る。 3 生涯にわたっての自学自習の習慣と自分自身で問題を解決する能力を身につける。 			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方	16	中間まとめ
	2	研究テーマ選定	17	研究の実施
	3		18	
	4		19	
	5	文献検討	20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	考察
	9		24	
	10	研究の実施	25	
	11		26	抄録作成
	12		27	研究論文の作成
	13		28	
	14		29	
	15		30	研究論文の発表
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。 			
評 価 方 法	研究計画書、研究態度、提出論文、発表を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・積極的に研究に取り組むこと。 2 日程は教員と相談して決定する。 			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	金曜日 16:10~17:40 C病棟5階 教授室6			

テ ー マ	感染管理、感染症看護に関する文献研究			
担 当 教 員 名	教 授 佐 藤 ゆ か			
科 目 概 要	文献研究をとおし、研究のプロセスを学ぶとともに、看護の専門性、EBP (Evidence Based Clinical Practice) についての考えを深める。 テーマ及び研究内容は、面談により決定する。			
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究疑問に関する文献検討をとおし、研究課題を明確化できる。 2 研究計画書を作成できる。 3 研究課題に関する文献レビューを行うことができる。 4 文献レビューから得られた成果を論文にまとめることができる。 			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	ガイダンス	16	研究の実施 文献レビュー 文献の整理と分析
	2	文献検討 研究課題の明確化	17	
	3		18	
	4		19	
	5		20	結果と考察
	6	21		
	7	研究計画書の作成	22	
	8		23	
	9		24	
	10	25	論文作成	
	11	研究の実施 文献レビュー 文献の整理と分析		26
	12			27
	13			28
	14		29	
	15	30	研究成果の発表	
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておくこと。 2 看護研究のプロセスを確認しておくこと。 			
評 価 方 法	ゼミへの出席状況、主体的な取り組み、研究計画書、提出論文、発表から総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜、紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生の主体的な取り組みを期待する。 2 研究の進め方については、学生の研究テーマや進捗状況により、調整する 			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 16:20~17:50 看護学部棟4階 N453 研究室			

テ ー マ	1 重症患者の生体リズムに関する文献的研究 2 ICU患者の疼痛、不穏およびせん妄に関すること ※上記の中から、期間中に完成可能なテーマを相談します。			
担 当 教 員 名	教 授 小 松 徹			
科 目 概 要	1 テーマ及び研究内容は面談により決定する。 2 自ら学習する姿勢や看護の専門性を追究し、発展させていくことを学ぶ。 3 必要に応じて、手術室、GICUなどへ出向く。			
目 標	1 研究計画、文献検索、論文作成など研究手法を理解し実践できる。 2 各自の研究課題について文献検討を基に、その成果を論文の書式に基づいてまとめる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方	16	研究の実施 文献収集、文献の整理と分析
	2	研究課題の選択	17	
	3		18	
	4	文献検索・検討	19	結果と考察
	5		20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	論文の作成
	9		24	
	10		25	
	11	研究の実施	26	論文の発表
	12		27	
	13		28	
	14		29	
	15	文献収集	30	
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。			
評 価 方 法	研究計画書、研究遂行、研究論文、発表を総合的に評価する			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 学生が主体的に未知の事柄について図書館やデータベースで調査し論文を完成すること。 2 日程は教員と相談して決定する。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:10～17:40 C棟5階教授室03			

テ ー マ	医療者の協働能力に関すること			
担 当 教 員 名	教 授 阿 部 恵 子			
科 目 概 要	1 テーマ及び研究内容は面談により決定する。 2 自ら学習する姿勢や看護の専門性を追求し、発展させていくことを学ぶ。 3 必要に応じて他学科・他大学へ調査に向く。			
目 標	1 研究計画、文献検索、論文作成など研究手法を理解し実践できる。 2 各自の研究課題について文献検討を行い、その成果を論文の書式に基づいてまとめる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方	16	データ入力と解析
	2	研究テーマ検討	17	
	3	研究テーマの絞り込み	18	
	4	文献検索・検討	19	結果・考察
	5		20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	論文作成
	9		24	
	10		25	
	11		26	
	12	データ収集	27	発表準備
	13		28	
	14		29	
	15		30	
論文の発表				
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。			
評 価 方 法	研究計画書、研究態度、提出論文、発表を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 学生が、主体的、積極的、創造的に取り組むこと。 2 日程は教員とメールで相談して決定する。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:00～17:00 C棟5階教授室5 面談の重複を避けるため、事前にアポイントメントを取ることが望ましい。			

テ ー マ	1 遠隔看護に関する文献研究 2 非がん疾患の緩和ケアに関する文献研究			
担 当 教 員 名	教 授 高 橋 佳 子			
科 目 概 要	看護の専門性を発展させていく方法として、療養生活支援(慢性期看護)に関連する問題や課題について、研究手法を用いて深め追求する。			
目 標	1 看護の質の向上に貢献するものとして看護研究を説明できる。 2 研究計画、文献検索、論文作成など研究手法を理解し実践できる。 3 研究課題について文献検討を行い、その成果を論文の書式に基づいてまとめ、プレゼンテーションができる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	オリエンテーション	16	研究の実施(文献収集)
	2	研究疑問と研究テーマ	17	
	3	研究疑問に関連した文献検討	18	
	4	研究テーマの設定	19	結果の解析①
	5	文献クリティーク①	20	結果の解析②
	6	文献クリティーク②	21	結果の解析③
	7	研究方法・データ収集法	22	考察①
	8	データ分析方法	23	考察②
	9	研究計画書の作成方法	24	考察③
	10	研究計画書の作成①	25	研究論文の作成①
	11	研究計画書の作成②	26	研究論文の作成②
	12	研究計画書の作成③	27	研究論文の作成③
	13	研究の実施(文献収集)	28	研究論文の作成④
	14		29	プレゼンテーションの方法
	15		30	論文の発表
準 備 学 習	1 毎回、授業前には研究課題に必要な書籍・文献を読んで参加すること。 2 授業終了後は、ディスカッションした内容をまとめておくこと。			
評 価 方 法	研究計画書(30%)、研究に関する自主的学習態度(20%)、提出論文(50%)、発表を含めて総合的に評価し、単位を認定する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	1 研究テーマに応じて適宜紹介する。 2 参考書 大木秀一、文献レビューの基本、医歯薬出版、第4刷(2015)、2,600円(税別)			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 授業計画は学生の進捗状況によって変更する場合がある。 2 履修に関するルールは本学の規定によるものとする。 3 毎回のディスカッションを通して課題の理解を深めるとともに、思考が整理できるようにフィードバックを行うため、学生の積極的な参加を求める。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:30-18:00 面談の重複を避けるため、事前にアポイントメントを取ることが望ましい。			

テ ー マ	地域における住民への地域看護活動（個人及び家族への支援、グループへの支援、地区組織活動等）に関する文献研究			
担 当 教 員 名	教 授 若 杉 里 実			
科 目 概 要	1 テーマ及び研究内容は面談により決定する。 2 自ら学習する姿勢や看護の専門性を追求し、発展させていくことを学ぶ。			
目 標	1 研究計画、文献検索、論文作成など研究手法を理解し実践できる。 2 各自の研究課題について文献検討を行い、その成果を論文の書式に基づいてまとめる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方	16	研究の実施 文献収集、文献の整理と分析
	2	研究課題の選択	17	
	3		18	
	4	文献検索・検討	19	結果と考察
	5		20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	論文の作成
	9		24	
	10		25	
	11		26	
	12	研究の実施 文献収集	27	
	13		28	
	14		29	
	15		30	論文の発表
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。			
評 価 方 法	研究計画書、研究態度、提出論文、発表を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 学生が主体的に取り組むこと。 2 日程は教員と相談して決定する。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:10～17:40 C棟5階教授室4			

テ ー マ	1 健康課題を持ち地域で生活する住民の健康支援に関する研究 2 海外における看護活動に関する研究 3 在留外国人の母子保健活動に関する研究 ※ 上記の中から、期間中に論文が完成可能なテーマの相談に応じる。			
担 当 教 員 名	教 授 坂 本 真理子			
科 目 概 要	1 テーマ及び研究内容は面談により決定し、自ら学習する姿勢や看護の専門性を追求し、発展させていくことを学ぶ。 2 研究に必要な情報や場所の提供、論文作成の支援を受け、論文をまとめる。 3 必要に応じてフィールドへ出向く。			
目 標	健康課題を持ち地域で生活する住民の健康支援等に関する研究課題について、文献検討、研究テーマの決定、研究計画書の作成と研究の実施、研究論文の作成までの過程を経験し、その成果を論文の書式に基づいてまとめる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方ガイダンス	16	研究計画書に基づいた文献検討、調査等の実施
	2	研究課題の選択	17	
	3			18
	4	文献検索・検討	19	論文の作成 (研究成果、考察、結論、要旨)
	5		20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成 (倫理的な配慮の検討含む)	23	
	9		24	
	10		25	
	11		26	
	12	研究計画書に基づいた文献検討、 調査等の実施	27	
	13		28	
	14		29	
	15		30	
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	研究内容や研究に係る既習の学習内容を復習しておく。			
評 価 方 法	論文(80%)と研究に対する積極的で自主的な態度(20%)を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 研究の全過程において、学生が主体的に取り組む。 2 日程は教員と相談して決定する。 3 フィールドへ出向く際の交通費やその他の諸費用は学生の負担となる。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:10~17:40 C棟5階教授室1			

テ ー マ	1 精神看護実践に関する文献研究 2 精神障害者・家族の看護および援助者の精神的問題に関すること ※ 上記の以外でも、期間中に完成可能なテーマでしたら可能です。			
担 当 教 員 名	教 授 寿喜田 恵 子			
科 目 概 要	テーマ及び研究内容は面談により決定する。自ら学習する姿勢や看護の専門性を追求し、発展させていくことを学ぶ。必要に応じて精神看護実践の場でのフィールドワークを行う。			
目 標	1 研究課題に対する自己の考えを説明できる。 2 文献検討をもとに研究計画書を作成することができる。 3 研究計画書に基づき、データ収集・分析し考察することができる。 4 研究の全過程を振り返るとともに論文を作成することができる。			
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	研究の進め方	16	研究の実施 文献収集、文献の整理と分析
	2	研究課題の選択	17	
	3		18	
	4	文献検索・検討	19	結果と考察
	5		20	
	6		21	
	7		22	
	8	研究計画書作成	23	論文の作成
	9		24	
	10		25	
	11	研究の実施	26	論文の発表
	12		27	
	13		28	
	14		29	
	15	文献収集	30	
準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習)	1 研究内容に係る既習の学習内容を復習しておく。 2 論文作成前までに論文作成方法を確認しておく。			
評 価 方 法	研究計画書、研究態度、提出論文、発表を総合的に評価する。			
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する。			
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 学生が主体的に取り組むこと。 2 日程は教員と相談して決定する。			
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:30～18:00 看護学棟2階 252 研究室			